



街散歩 虎ノ門

TORANOMON

寺町の面影と再開発が共存する街——虎ノ門

江戸三十六見附の一つ「虎の御門」に由来する“虎ノ門”。現在は、オフィス街として知られる街も、昔は大名屋敷や寺院が多く建ち並んでいた。また、ここ最近、次々に再開発が行われ、以前とはまた違った街並みを見せ始めている。今回は、寺町の面影と再開発が共存する街・虎ノ門を散策する。





出発は、五差路の虎ノ門交差点。官庁街とオフィス街の接点にあたり、交通量も激しいところだ。地下鉄の出入口では、その名のとおり、虎のブロンズ像が迎えてくれる。交差点の向かいには、赤レンガ造りの旧文部省庁舎。すでに周囲は、解体工事のための囲いで覆われている。3年後には、2棟の超高層ビルが建ち、今とは全く違った風景を見せてくれるだろう。

交差点を背に少し歩くと、今度は完成間近の超高層ビルが建っている。「虎ノ門琴平タワー」だ。その横に、見過ごしてしまいそうな小さな鳥居を発見。「金刀比羅宮」の裏門である。工事の囲いに覆われているため、境内は暗く、始終工事の機械音が響く。しかし、お参りをする人は後を絶たず、江戸時代に多くの人で賑わったというのも納得できる。ちなみに、ここは禁酒の神様である。

細い通りを歩いていると、突然蔦だらけの物体が目飛び込んできた。近づいてみると、かろうじてドアと2階の窓が見える。窓には、「喫茶般若 昭和42年創業」の文字。オフィスビルの裏手で、まだこんな建物が残っていたことに妙に感心してしまった。

ホテルオークラを横目に見ながら、急勾配、急カーブの江戸見坂を上ると、途中にライムストーンの外壁が見えてくる。「菊池寛実記念 智美術館」だ。昨年できたばかりの美術館で、まだあまり知られていない。一息つくにはちょうどいい。美術館の横では、「TORANOMON TOWERS(旧・虎4計画)」の大規模な工事が行われている。ここにも、超高層ビルが建つようだ。坂を上りきると、中国風の門と石の建物がある。国内で最初にできた私立美術館「大倉集古館」である。館内はもちろん、庭にもさまざまな美術品が展示されている。「ここが外国だったら、間違いなく盗難に遭うだろう」そんなことを考えながらも、庭を散策。遠くには、東京タワーや建設中の超高層ビル「赤坂インターシティ」が見える。噂には聞いていたが、この辺りは本当にオフィスビルの開発ラッシュであることを実感させられる。

警察官だらけのアメリカ大使館周辺を避け、神谷町駅方面へ。愛宕山の緑を活かしながら、寺院と超高層ビルを一緒に再開発した「愛宕グリーンヒルズ」を散策。さらに、約40度の急勾配で知られる「愛宕神社」男坂の石段を上る。頂上で息を切らしながら後ろを振り返ると、あまりの高さに眩暈を起こしそうになる。昔は、房総のほうまで見えたという話も頷ける。境内には、社殿のほかに、自然の緑と小さな池があり、涼しい風が吹き抜けていた。都会の真ん中にこんな山があったということに、改めて感動させられた。きっと江戸の昔から、ここはほとんど変わっていないのだろう。このまましばらく、緑の匂いと風の音を感じながら、昼寝でもするとしよう……。

参考文献：「江戸・東京 歴史の散歩道3」(街と暮らし社)、「港区史跡散歩」(学生社)

1 愛宕神社 丹塗りの門

2 愛宕神社

1603年、徳川家康の命により、江戸の防火の神として祀られた神社。東京23区で最も高い愛宕山(海拔26m)の頂上であり、眺望の名所として庶民に親しまれたという。なお、ほおずき市の起源はここで、毎年6月に行われる「千日詣り」では、縁起物のほおずきが売られる。

3 菊池寛実記念 智美術館

現代陶芸コレクター・菊池智のコレクションを公開するため、2003年4月に開館したばかりの新しい美術館。敷地内には、国の登録有形文化財になった大正末期の2階建ての洋館(別館)もある。

4 大倉集古館

ホテルオークラの創始者・大倉喜七郎の父、大倉喜八郎が1917年に創立した日本初の私立美術館。絵画・彫刻・工芸品など2000点以上の美術品を収蔵・展示している。

5 愛宕グリーンヒルズ内 遊歩道

寺院などの歴史的建築物と超高層タワーなどの近代的建築物が、緑とともに共存する街・愛宕グリーンヒルズ。敷地内は、遊歩道が整備され、都会の真ん中で緑を楽しむことができる。

6 喫茶 般若

蔦に覆われた喫茶店「般若」。創業は1967(昭和42)年。お店の2階では、パソコン同好会や英会話教室なども行われている。

7 金刀比羅宮 銅鳥居

1660年、丸亀藩主の京極高和が四国讃岐の金刀比羅宮から三田の藩邸内に勧請した邸内社。1679年、藩邸の移転とともに現在地に移り、1800年代に入ってから、毎月10日に限り庶民の参詣が許された。信者が寄進した銅鳥居には、四霊獣が取り付けられている(写真は朱雀と白虎)。

8 青松寺

江戸城を築いた太田道灌が、1476年、麹町貝塚(現在の国立劇場・最高裁判所辺り)に建てた曹洞宗の寺院。江戸曹洞三カ寺の一つに数えられる。1600年、現在の地に移転。下の病気に効くとされる「奴地蔵」が有名。

